

平成 29 年度 狛江市市民活動支援センター第 4 回運営委員会 議事録

- 1 日 時 平成 29 年 12 月 13 日 (水) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
- 2 場 所 市民活動支援センター フリースペース
- 3 出席者 委 員 伊藤輝芳 伊藤聡子 上田英司 内海貴美 荻野修 大矢美枝子
高橋英史 高橋宗孝 田部井則人 羽田野英博 松村正俊
松村雪子 三島瑞子 渡辺敏政
事務局 小楠寿和 志田五十鈴 白石珠美 高橋善治 中里紀男 日比野浩
(50 音順 敬称略)
- 4 欠席者 委 員 西岡邦子
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題 1 報告事項
(1) こまえくぼ 1234 壁面ペインティングについて
(2) 専門部会からの報告について
(3) 指定管理業務の報告について
2 協議事項
小委員会の再提案について
3 その他
(1) 地域福祉活動計画 (案) 市民説明について
(2) その他
- 7 配布資料 狛江市市民活動支援センター指定管理業務報告書 (9 月 1 日～11 月 30 日)
元気スクールグループ連携組織図将来像
地域福祉活動計画 (案) 市民説明会
狛江市参加と協働市民フォーラム 第 2 回狛江☆サミット

8 会議概要

1. 開会

- (1) 委員長あいさつ
委員長からあいさつがされた。

2. 議題

- (1) 報告事項
①こまえくぼ 1 2 3 4 壁面ペインティングについて
—事務局より説明—
こまえくぼの PR として、もう少し入りたくなるようなことができないかという提案が市役

所にあり、狛江市在住のデザイナーの方にご協力いただくことになった。8年ほど前に第六小学校の教室や図書室をペインティングしたこともあるとのこと。内容については、子どもから大人まで利用するセンターとしての視点をもって、今後検討していく予定となっている。運営委員の皆さんにもご参加ご協力等いただくことがあると思う。

②専門部会からの報告について

◇広報部会

- ・11月15日に広報誌「こまえがお」第3号を発行。食を通じた居場所づくりをしている団体の活動に参加している子どもたちへのインタビューを中心としたものになっている。
- ・3月15日に第4号の発行を予定している。編集長をバトンタッチし、メンバーの追加も行き、現在次号の内容について検討中。
- ・運営委員のリレートークがあるので、またお願いをしたい。

◇情報部会

- ・ホームページが立ち上がり、約1年が経過。今後はよりホームページに特化して活動していくこととして、部会名もホームページ部会とする予定。
- ・団体登録数も増えてきて、それぞれ専用ページを使用して情報発信ができるようになっていく。登録団体のうち約4割が情報発信をしているが、団体自身が発信していくにあたり、市民協力者によるお手伝いをしていくために投稿サポーターを募集する予定。
- ・団体間の交流も図れることを想定している。
- ・投稿サポーターの説明会の1回目を12月16日（土）に実施する予定なので、各委員の方にもそれぞれの団体に持ち帰り、情報提供をお願いしたい。

◇体験学習部会

- ・各メンバーがセンターで実施している小中学校の授業協力への参加をしている。
- ・市内小学校へ行ったアンケート結果をまとめて、今後の部会活動に活かすことを検討。体験学習のガイドブックを作成して、学校の教員や地域の方にも活用してもらえるようにと考えている。
- ・体験学習のしくみについての検討や、プログラムの見直しや開発、イベントの実施等について今後取り組んでいく予定。

③指定管理業務の報告について

—指定管理における事業実績報告の添付資料に基づき事務局より説明。—

(委 員)

専門相談で、相談会のお金がないという相談について、どのくらいの金額のお金がないのか。

(事務局)

金額について相談会では伺っていないため具体的な金額ではお伝えできないが、たとえば常設化したいという団体にとっては、立ち上げ運営していくためのかなりの金額が必要になる。有償スタッフをいれたいという団体にとっては、給料として払っていくのか、あるいは謝礼くらいならば払えるのかなど、そういったお金に関する相談であった。

(委員)

利用内訳の人数が多いのは、打ち合わせやセンター事業、団体イベントとなっているが、これはうれしいことなのかどうか。場所貸しはセンター本来の目的はないと思う。そのあたりも考えていただけるとよいと思う。

(委員)

人数だけではわからない部分もあると思う。

センターの機能にマッチングしていて、人数も増えていていいのではないか。

(事務局)

団体イベントについては、相談と同じように、どうすればより良い形で行えるかなど内容についてもその都度打合せをして行っているので、単なる場所貸しとして行っていない。

イベントをやるのが団体にとってだけでなく、普段かかわりのない人もセンターに足を運ぶことで違うつながりもできるという側面もある。

また、目的の一つとして、新しい試みにチャレンジしてみるということもある。そういう支援としてもこの場所を使ってもらっている。

(委員)

市民活動をやるにしても打ち合わせや発表の場が十分にあれば、ここでやらなくてもいい。目的があってやっているのと、場所がないからここを貸しているというのでは数字の意味が違ってくと思う。事業の目的と結果をもう少し詳しく説明してもらえるとわかりやすい。

(委員長)

意図を明らかにしていくということは、とても大事な視点だと思う。

(委員)

食堂・居場所団体情報交換会について、広報誌「こまえがお」に掲載されている団体が参加しているのか。

(事務局)

掲載されている団体のうち、NPO 法人狛江子ども食堂をのぞく4団体と、掲載はされていないが、NPO 法人フードバンク狛江の5団体が参加している。

(委員)

子ども食堂の活動がとて増えており、それは貧困の問題や生活困窮の問題、食自体の問題など様々なことがないまぜになっている。食堂に限ったことではないが、それぞれの団体が何を大事にしているかということや、何を出発点としているかなどそれぞれの団体に違いがあるので、うまくまとまらないこともある。最大限共通していることをベースにして違いを大事にしつつ、

ゆるやかにつながっていけるといいと思う。

(委員)

中学校の授業協力は2～3年ぶりということであったが、校長会などでお話をして中学校から依頼が来たということか。

(事務局)

オリ・パラ教育の影響があると思う。障がい者理解ということで問い合わせがあった。

(2) 協議事項

小委員会の再提案について

(委員長)

前回(9月)の委員会で、委員から小委員会について提案があったが、小委員会として取り扱い範囲が広すぎることや予算にかかわる部分も含まれていたことなどから、改めて提案内容を整理・精査して提案をしていただくことになっていた。本日、改めて提案説明を受けてから、皆さんで審議をしていただきたい。

(委員)

情報部会が行ったイベントは、ホームページという切り口から、こまえくぼの役割である市民活動を支援するという意図で行った。ホームページを活用することと、団体を増やすことは意図が違うので、小委員会というかたちでの提案をさせていただいた。

情報部会のイベントの参加団体で、高齢者を中心に活動している元気スクールという団体がある。元気スクールは狛江市から介護予防・日常生活支援総合事業の通所型サービス B の指定を受けて、自主グループの通所サービスとして活動している。全国でも非常に珍しいため、大阪府から声がかかり、事例紹介をした。その様子をビデオでみていただきたいと思う。

—ビデオ上映—

(委員長)

運営委員として、こうした提案があったことは初めてのことになる。事務局から、小委員会のことについて説明をお願いします。

(事務局)

市民活動支援センター運営委員会の設置及び運営に関する要綱の第7条で小委員会について記載されている。

- ・運営委員会の議論の中で、特別に検討及び協議する事項が生じた場合に設置すると謳われている。何を検討するのかという目的がしっかりしていることが基本になる。

- ・構成やメンバーは委員長の案をもって議決を経て決める。
- ・小委員会はある特例的な事項について検討した結果を運営委員会にもどし検討することになる。
- ・また、運営委員がメンバーとなる。いろいろ情報を集める必要があれば、説明会を開くなどして参考にしていくというかたちをとる。
- ・市民とのとりくみとしては専門部会があるが、当初は運営委員会の下組織として考えていたものの運営委員会ではなく事務局に紐づくものとなった。

提案されたものについては、運営委員会で議論していくかどうかということを検討する小委員会というかたちも必要ではないか。

(委員長)

改めて小委員会についての基本的な考え方をまとめていただいた。何か質問があれば出していきたい。

今回のように運営委員から運営委員会に提案されたのは初めてのことで、その意味では特別な事項ということになるため、小委員会を設置することとしたい。具体的な内容には至らなかったが、設置については前回の運営委員会で承認された。今回は運営委員の中から小委員会の委員に手を挙げてもらいたい。

(委員)

この小委員会は何をするのか。今、元気スクールの話は聞いたが、それを広めるために活動するのか。はっきりわからない。

(委員)

この課題が小委員会なのか、専門部会なのかは議論していただけたらいいと思う。

運営委員だけで小委員会が構成されるということには疑問がる。目的がはっきりしないまま、運営委員会の中だけで目的を決めてしまうということになる気がする。

元気スクールも移動支援もこまえくぼがなくても進めていく。

こまえくぼがどう関わるのか、関われるのかということが、大きな目的だと思う。

(委員)

こまえくぼとして、野川元気スクールのことをどうバックアップするかということを検討するのか。

(委員)

そうではない。

(委員)

狛江市は老人会も充実している。高齢者の活動もいろいろあるのに、どうしてこの新しい事業があるのか。それをこの委員会でどう検討するのか。

(委員)

小委員会にするかしないかということであれば、元気スクールのためにするためのものでは

ない。様々な関係機関がしくみづくりに参加する中、こまえくぼがどのようにかかわるのか、ということだと思う。

(副委員長)

小委員会は、運営委員会の中でも特に優先的な事項について、とりわけ組織運営的な課題について議論する場ではないかと思う。しかしこうしたかたちで提案が出ることは歓迎すべきことでありながら、小委員会を認証するプロセスというものも不十分だったと思う。どういうプロセスでどういう内容で検討するのかということの整理が必要。

(委員長)

小委員会を立ち上げて、提案されたものについて整理をするということになる。

(委員)

今の議論を私なりに理解すると、小委員会が運営委員から構成されるのであれば、やる内容としては、直接団体を支援するのか、団体支援を行うための仕組みや体制などの検討をするのかの二通りになる。困っている団体を支援する体制をどう形作っていくかを検討するのが小委員会かなと思う。

(委員)

提案されたものは、実際にその活動を支援するために、支援センターが何をするかということを考えている。一方、この委員会では、運営委員会の下に小委員会があるとしている。支援センターがやる業務と一緒に考えて一緒にやりましょうということだと思うが、支援のためのやり方やしくみを検討し、支援センターにつなぐのが運営委員会の役割だと私は思っている。小委員会がやることの考え方が初めから合っていないので、話がごちゃごちゃになっている気がする。

(委員)

元気スクールを応援しようという話ではない。市でもいろいろな団体や施設があって、それぞれ個々が選択して利用しているのに、これとタイアップする必要があるのか。

(委員長)

特定の団体を応援しようという提案ではない。こういう活動に対して一つのモデルとしてどう関われるかという提案が今回初めてされた。要綱に沿って考えれば、その提案に対して、運営委員会の場ではなく小委員会で検討するというのが小委員会の役割だといえるのではないか。そこで皆さんに諮っている。

(委員)

前回は、ホームページに関するお手伝いや周知の方法について、支援していこうという提案だった。今日の提案は、それとつながっているのか、まったく別のことなのかわからない。

(委員)

ホームページ部会のことと、今回の小委員会とはまったく別と考えている。

(委員)

私が一番したかったのは、小委員会という場でいろいろ検討した結果、運営委員会で報告とい

うかたちできちんとした話ができるという意味で小委員会を提案した。運営委員のメンバーだけで小委員会を構成するというのであれば、運営委員会ではほかにもっとやるべきことがたくさんあると思うので、それをさせていただいたらいいのではないか。

(委員)

このメンバーの中から小委員会をつくるということに意味がないということか。小委員会の考え方と何か課題があった時に小委員会で練ろうということはわかった。前回の提案を経て、今日の提案を聞いたが、わからない。

(副委員長)

今回のこの件を通じて、小委員会の申請方法などがあいまいであったり、提出する書式が決まっていなかったが、こういった提案があったことは活発な委員会であると思う。いずれにしても、こういったプロセスを残していく、アイデアをかたちにすることは大事。小委員会を設置するための小委員会を一度作ったらいいのではないか。

(委員)

小委員会をつくるための委員会を作るというのは、無駄ではないか。何かをやるために小委員会を作ろうと提案しているんですね、何やるかわからないから小委員会で考えましょうということではないですね。

(委員長)

具体的に検討する内容は今日提案されたものになる。小委員会の選出は要綱にあるように運営委員からとなっているので、市民活動支援センターとしての小委員会はこういうことはできますと提案して、それについて運営委員会で議決を経て実施する。その後、こまえくぼが協力することがこの部分ということが決まる。そのあとどうリンクさせながら活動をどう広げていくかは自主グループとして進めていくことになるのでは。

(委員)

専門相談会で4団体が相談をしたとの報告があった。元気スクールも課題としては同じものを持っているので、小委員会を立ち上げることもないのではないかとこまえくぼが思っているかもしれない。逆に、こまえくぼとして、新しい団体との交流などをもう少しかたちにしていかないと先ほど言った意図が見えてこない。それを提案しただけであって、小委員会が必要かどうかは別。小委員会は運営委員のメンバーで構成されるのであれば、最初の意図とは違うため取り下げたほうがいいかと思う。

(委員)

前回の委員会では、必ずしも運営委員が小委員会のメンバーにはならないということだったが、先ほどの話では少し違うことになったし、少人数で採決したものの一回決まったら必ずしもやらなければいけないわけではないと思う。少ない出席の中で議決をとった。今日いろいろなご意見を聞いてみて、決まったからやるということではなく、白紙に戻してもよいのではないか。

(委員)

私もそれを提案したい。

(事務局)

委員からのご指摘の小委員会の構成の件ですが、当初は専門部会を置く時には一般市民も交えてやるということで第7条第3項として運営委員以外の市民も構成員にできるとしたが、運営委員会で検討し要綱を改定した小委員会からは、市民が参加する条文を除いているため、運営委員会のメンバーで構成するという解釈になる。いろいろな人の意見を吸い上げることについては、別に機会を設けるなどして、取り入れていくことができるのではないかと。

(委員長)

いま、小委員会の設置については白紙に戻したらどうかという提案があったが。

(副委員長)

委員の提案については、提案の意図と小委員会の中にギャップがあったので取り下げるということになったが、別に、こまめくぼの相談業務などをおして継続的なかたちをとっていくことができる。委員から話も出たが、プロセスづくりのための委員会をもうけるのではなく、事務局と運営側で不足する部分を整備するというので、小委員会のことについては、取り下げということにしたらいかか。

(委員)

それで構わない。

(副委員長)

今回の提案は取り下げることになるが、ただし、こういった積極的な発案については、今後しくみを作っていくことになる。

(委員長)

運営委員が主体的に提案したり、問題提起するということは、運営委員会の主体性を守るうえで大事なことなので活かせるようにしたい。今回の提案については、小委員会の立ち上げについては取り下げることによいか。

(副委員長)

たとえば今の例でいくと、こういうことで応援したいので、みなさんにご意見をうかがう。委員としてはこれだけの人数ではやれないことや、専門的なことについては小委員会を立ち上げる、一般の方が小委員会に入れなくても、情報を入れることはできる。そのようにして、最終的に運営委員会に再度図っていく、そのように考えていったらどうか。

(委員)

運営委員の皆さんがこのことについてよく把握して議論されているのならいいが、運営委員会の規約があるからだめということか。

(委員)

規約のためということではなく、運営委員会ではこういった構成でやるということ。

私は、運営委員会の小委員会で何をやるのかということおっしゃっていないのはっきりわからなかった。

野川元気スクールのことやその取り組みはわかった。それに対し、小委員会がどう取り組むか

がわからない。たとえば、元気スクールやっている人たちをもっと何とかするための方策をもっと深く考えて支援センターでやってもらうために小委員会を作るといっているのであればわかる。

(委員)

元気スクールは高齢者団体の一つとして小委員会のテーマにと考えた。そこで何をするかという話を小委員会で検討してということで理解していた。

こまえくぼが、中間支援組織として、行政と団体との間の役割を考えるいいテーマかと思い提案させていただいた。

(副委員長)

繰り返しになるが、今回の提案については取り下げとなるが、再提案にしても、小委員会の枠組みはもう少し整理しておかないと今回のような議論を繰り返すことになる。運営側の準備が整っていないので、それは事務局と正副運営委員長の宿題としたい。

(委員長)

今回の提案は白紙に戻し、小委員会については正副委員長と事務局で整理をして次回委員会で報告したい。

今日の協議はこれで終わりとする。

3. その他

①地域福祉活動計画市民説明について

—資料に基づき社会福祉協議会事務局長より説明—

②市民参加と市民協働に関する審議会より

資料(チラシ)に基づき、委員より説明

昨年度も行った、狛江サミットを1月23日午後1時から行う。

活動が順調に進んでいる4団体の発表がある。都合のつく方はぜひご参加いただきたい。

③事務局より

臨時運営委員会を開催する予定。本日議論され宿題となった小委員会の枠組みのことで、次年度事業計画について詳細を正副委員長と相談しながら皆さんにもご意見をいただきたい。現運営委員の皆さんの任期が翌年4月末までとなっているが、よろしくお願ひしたい。

次回臨時運営委員会

3月7日(水) 19時～